

【息】國名。前六八〇年、楚の文王に滅ぼされた。故城は今の河南省息県の西南。
【虜其君使守門】虜は、捕えて奴隷にすること。門番には、足切りの刑を受けた者などがあてられた。

息君夫人

【妻】こは動詞、妻妾の一人に加えること。
【要】要するに、結局は。
【須臾】シユニ 須・臾 節三画
【匹敵】ジセウ 再婚すること。且二耳注「一醜不改」
【作時曰】時王風、大車篇。「殺きては則ち室を異にするとも、死しては則ち穴を同じうせん。われを信あらずと謂はば、敵日の如き有らん」
【殺】集伝生也。【穴】窟也。【敵】ケウ 白也。
【謂予不信有如敵日】集伝約誓之辭也。「わたしの真心を疑うのなら、如く太陽にかけて誓いましょう」の意。
【諸侯之適】もとの諸侯の身分としての葬礼。
【説】悦
【序之於詩】心の次第を時に述べる。序は、ついで、順序を追って述べる。
【詩云】時王風、谷風篇。「德音 遠ふなくんば、なんぢと死を同じうせん」
【德音莫違及爾同死】德音莫、無。及、與也。
【徳注】德音、美辭也。言德音之不違、則可與之同死矣。
【適妃】正夫人。適、適也。
【彌久】ビキウ 彌、弥も、久しの意。
【思故忘新】故は息君、新は楚王を指す。

夫人者、息君之夫人也。楚伐息、破之。虜其君、使守門、將妻其夫人、而納之於宮。楚王出遊。夫人遂出見息君、謂之曰、人生要一死而已。何至自苦。妾無須臾而忘君也。終不以身更貳醮。生離於地上、豈如死歸於地下哉。乃作詩曰、穀則異室、死則同穴。謂予不信、有如敵日。息君止之、夫人不聽。遂自殺。息君亦自殺。同日俱死。楚王、賢其夫人守節有義、乃以諸侯之禮、合而葬之。君子謂、夫人説於行善。故序之於詩。夫義動君子、利動小人。息君夫人、不爲利動矣。詩云、德音莫違、及爾同死。此之謂也。
頌曰、楚虜息君、納其適妃。夫人持固、彌久不衰。作詩同穴、思故忘新。遂死不願、列於貞賢。